

優秀賞 山口県 山田 圭子 様（60代 女性）

「いつか自分の店を持ちたい」と希望する主人と結婚した時から私は老後の生活費の基盤は自分の責任で準備しなければいけないと覚悟をしました。

結婚して七年後に資金も地盤もないまま故郷に新しく出来たショッピングセンターにインテリアの店を構える事が出来ました。

ショッピングセンターは月一度の休日しかなく、しかも毎日二十時閉店でしたので、二人の娘達には楽しい思い出も残してやれず、ずいぶん寂しい思いをさせてしまいました。子供たちを犠牲にしてしまったことを今頃になって後悔しています。面倒を見てくれた父母や周囲の人達と、道を外すことなく育てくれた子供たちにただただ感謝です。もしやり直せるなら子供達のために学校から帰った時に手作りのおやつを用意して「お帰りなさい」と言ってみたいと、最近よく思います。

とにかくなりふりかまわず頑張ったお陰で商売を始めて八年後には有限会社として法人に改組し、社会保険に加入することができました。これによって厚生年金を掛けられるようになり老後の資金計画が安定しました。それが嬉しくて「どんなに苦しくても社会保険だけは絶対に滞納しない」と秘かに固い決心をしたことを今でも覚えています。

それからショッピングセンターの解散やインテリアショップから美容材料の卸業への転身、石油ショック・リーマンショック・長期のデフレと多くの荒波をかぶりながら四苦八苦の人生でした。継続は力なりといいますが、がむしゃらに六十五歳まで社会保険も年金も一度の滞納もなく掛け続けることができ、年金支給の通知が来た時には本当に肩の荷を下ろす事ができました。

大手企業にお勤めの方には想像もできないと思いますが、零細企業では給料とは名ばかりのもので、貰ったはずの給料はすぐに会社の支払いの補填のために個人貸し付けとして再び会社に戻すことになってしまいます。私は長い間自転車操業の会社の経理を預かってきましたので、給料が全額使えるものとは思わずに過

ごしてまいりました。店を始めてすでに四十年が過ぎましたがまだ仕事は続けています。幸いなことに年金だけは会社への貸し付けをしなくすむようになり、家のために全額使うことができるようになりました。

それがどんなにありがたいことか、嬉しいことか、長い間給料をもらって生活をした人には到底理解できない事でしょう。それ故に年金が貰える幸せは人一倍強いのかも知れません。年金を掛け続けられたこと、貰えるようになったこと、自由に使えるようになったこと、これら全てが一生懸命に生きてきた証として、わたくしへのご褒美としてこれからの人生を保障してくれます。

少ない給料しか取れなかったので年金も決して多くはありませんが、生きている限り生活の基盤は保障されるので老後を安心して暮らせます。これから先貰えなくなるかもしれないと危惧している若い方々が、今大勢いらっしゃるそうですが、皆さんが年金を掛けなくなったら、国は国民の老後の保障を放棄せざるを得なくなります。

個人で老後資金を調達出来る人は良いでしょうがそれができない人はどうなるのでしょうか？そうなったら日本もなくなるのではないのでしょうか？それでも良いのでしょうか？皆さんが年金を掛け続ければ年金はなくなりません。年金は将来への自分へのご褒美だと思ってどうか掛け続けてください。貰えるようになったことに感謝して老婆心ながらのお願いです。